

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成30年度 第5回短期大学会議教育改革ICT運営委員会議事録

I. 日時 平成31年1月13日(月) 10:00~12:00
場所 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局会議室

II. 出席者 戸高委員長、三田委員、西岡委員、大重委員(ネット参加)
(事務局 井端事務局長、中村)

III. 検討事項

1. 「平成31年度短期大学教育改革ICT戦略会議」の開催内容について

最初に、前回の議事内容にもとづき、以下の方針を確認した。

- ① プログラムの構成は、講演を行うよりシンポジウムを行い、その後で事例紹介、全体討議とする。
- ② テーマは、「地域活性化を促進する短期大学の地域貢献活動教育を考える」として、自治体、民間機関を招いて、連携接続の必要性、期待される効果について意見を出し合う。
- ③ 事例紹介は、タブレットを用いた授業外学修の促進と学修ポートフォリオによる卒業時の質保証に取り組んでいる山梨学院短期大学、ICTを活用した地域貢献プログラムの開発に組織的に取り組もうとしている実践女子大学短期大学部の計画・準備について紹介する。
- ④ 全体討議は、有志の短期大学教職員に参加を呼びかけるため、地域貢献活動を支援するための具体化計画を提案し、認識の共有、参加者との合意形成を行う。
- ⑤ 支援事業について多くの短期大学から理解が得られるよう、会議のネット配信も検討することにした。

次いで、以上の方針を踏まえて、平成31年度における戦略会議の開催内容について、以下の通り検討した。

- ① 「シンポジウム」は、地域の活性化・発展に短期大学がチームとして地域接続し、学外実習による教育のオープンイノベーションの可能性について、短期大学のガバナンスと地域関係者で認識の共有を図ることが重要である。全体討議に入る前に、地域も短期大学も人材育成に真剣に向き合うシナリオを考えることになり、次回にシナリオを検討することになった。なお、オープンイノベーションについては、既に実際に取り組んでいる自治体、民間団体があるので、地域から2名、短期大学から2名程度の参加を考えることにした。
- ② また、検討の中で、教育のオープンイノベーションについて、次のように理解することにした。知識と実践知をマッチングして、社会で問題発見・解決ができるように、学外の組織や人的資源を大学教育に取り入れる。大学の授業が社会と接続する「大社接続」は、「高大接続」の入口に対して、出口の仕組みとして欠かせない。卒業までの間に学びの失敗などを経験させることにより、真剣な学びができるようになる。学生全員会を対象にするのではなく、変革する意欲や主体性・協働性・多様性を備えた学生で学びを創ることで、大学の価値が向上する。そのような人材育成の活動に、社会がクラウドファンディングするようになる仕掛けが必要で、組織を母体にしたクラウドファンディングを私情協として提案していく必要がある。
- ③ 「全体討議」では、短期大学と地域接続による地域貢献活動の具体的計画について、本協会からの提案を踏まえて議論・合意形成を行う。具体化計画案の内容は、地域貢献活動支援事業の意義と期待される効果、短期大学教育における意義と効果、地域における意義と効果、支援事業を支え合う具体的な事業、支援事業に求められる知識・技能、支援事業展開時のプラットフォームや運営などについて、委員会で案をとりまとめ提案する。

全体討議の着地は、自前主義から脱却して、自治体・企業・民間の地域団体と短期大学が接続して、ネット上にプラットフォームを設け、最良の学びの場を提供する教育のオープンイノベーションが不可欠となっていることについて認識の共有ができるようにしたい。

- ④ 来年度の開催要項を作成するには、シンポジウムでオープンイノベーションする覚悟がもてるようなシナリオを作成しておく必要があることから、次回に検討することにした。また、具体化計画の詳細を作るには、今日のメモを参考に運営委員会の中で「小委員会」を設けて検討していくことにした。

3. その他（次回委員会の日程）

委員に諮った結果、3月12日（火）13時30分より私情協事務局において第6回運営委員会を開催することとした。